

淀の草笛

(八卷)

帝キネ芦屋映畫

原作者 松本英一氏
脚色者 千野 蕭氏
監督者 松本 英一氏
撮影者 大森 勝氏

主要役割

石工 彌平 小島 洋々氏
娘 宏吉 歌川 八重子嬢
許嫁 宏吉 里見 明氏
大學出の青年 貞夫 溝口 末之助氏

村長 横山 隆吉氏

解説——帝キネ芦屋映畫俳優の芦屋劇場舞臺
實演出流後に於ける松本英一氏の第一回作品で
ある。大政人特有の感傷を描いたものである。
略筋——河添の田舎に蟹で人の好い彌平とい
ふ石屋があつた。彼の娘お藤はその河を上下す
る汽船の船員宏吉と許嫁の間柄であつた。それ
て相愛の二人は幸福な日々を送つて居た。然し彼
等の心の間に不幸な隙間が出来て終ふ日が來た
のである。それは村役場へ就任した真雄がお藤
の家へ下宿する事となり、自然女の心が都なれ
た真雄に傾いたのである。宏吉は煩悶せずには
居られなかつた。彼はもう自分の心の行衛がわ
からなくなつて、そして遂にお藤を心中に誘つ
た。深い淵へ二人の姿は呑まれて終つた。然
し彌平はそれを知らずに相變らずニコニコ
ニコニコ石を刻んで居た、短いその不幸な餘
命をおのが手にきざむが如く……